岩手医科大学歯学会・岩手県歯科医師会共催シンポジウム「東日本大震災から５年を振り返って～我々がしてきたこと，してこなかったこと，これからすべきこと～」シンポジウム事後報告書発刊にあたって

三浦 廣行
岩手医科大学歯学部長
岩手医科大学歯学会会長

平成23年３月11日午後２時46分に発生したマグニチュード9.0の巨大地震による東日本大震，その後の巨大津波と，あってはならない原発事故によって，我が国の災害史上，未曾有の被害を及ぼした．

犠牲になられた方々に対し，深く哀悼の意を表すとともに被害に遭われた皆様に，またいまだに避難生活をされている皆様に，心よりお見舞い申し上げます．

東日本大震災から５年を経過した平成28年12月３日に，岩手医科大学歯学会第42回総会で，「東日本大震災から５年を振り返って～我々がしてきたこと，してこなかったこと，これからすべきこと～」と題して，岩手医科大学歯学会・岩手県歯科医師会共催シンポジウムを開催した．

本稿には，当日のシンポジウムの内容をまとめたものと，さらに津波と原発事故の両方の災害を経験された福島県いわき市歯科医師会の中里迪彦先生の特別寄稿を掲載した．

岩手医科大学歯学会では，東日本大震災から１年後に，「岩手医科大学歯学部における東日本大震災時の活動報告」の記録集を，岩手医科大学歯学会雑誌37巻supplementとして発刊した．その巻頭言に，

『人はたいていのことは忘れてしまい，覚えているのは本当に必要なことか忘れてもいいような不必要なことだと云われている．しかし，忘れようにも忘れられないこともある．だからこそ，嫌な，悲しい出来事があったら「それがあったからこそ，このようになれた，このように変われた」とポジティブに考えることである．起きた出来事は，その後のあり方で我々に多くの生きる力を与えてくれる源となるものと思う．

そして生きてここにいるのは，選ばれてこの世に生を授かり，今現在ここに生かされているからなのである．事態がすぐに好転することはないだろうが，人間は，どんなに過酷な試練にあっても，それを乗り越え，未来を切り開いていく力があるものと信ずる．かつて，多くの先人達が見せてくれたように．

生かされた我々は，「一日一生」：一日が一生と思いつつ生きること，そして，自分にできることに精一杯取り組んでゆくことである．

本記録には，本学教職員の発災直後からの貴重な体験が記されている．この記録をまとめ，読み返すことで，この度の苦境に出逢った意味がわかってくるものと考える．』と記した．

今回のシンポジウムを通して，この震災で得た多くの教訓を後世に長く受け継いで行くとともに，震災から６年を過ぎた現在，心のケアーの必要性を強く認識するとともに，犠牲になられた方々への鎮魂と未だに消息の不明な方々のご家族の焦燥を念い，未だに途上にある被災地の一日も早い復旧・復興への更なる支援に努めたい．

最後に，この記録が岩手医科大学のみならず，今後の世界の災害及び災害医療対策に大きく寄与することを願い，心温まるご支援いただいたすべての方々に深く御礼を申し上げます．